

1906 年にハワイへ移民した津波清太の荷札▶
(津波清撮影、2010 年)



▼神戸移住斡旋所。日本復帰以前、日本政府は
ブラジルへ移民する者に対して渡航費等を補
助していたため、沖縄から兵庫県へ籍を移し
た者もいた。(株式会社商船三井提供)



▶南米拓殖株式会社の株券
(浦添市立図書館所蔵)

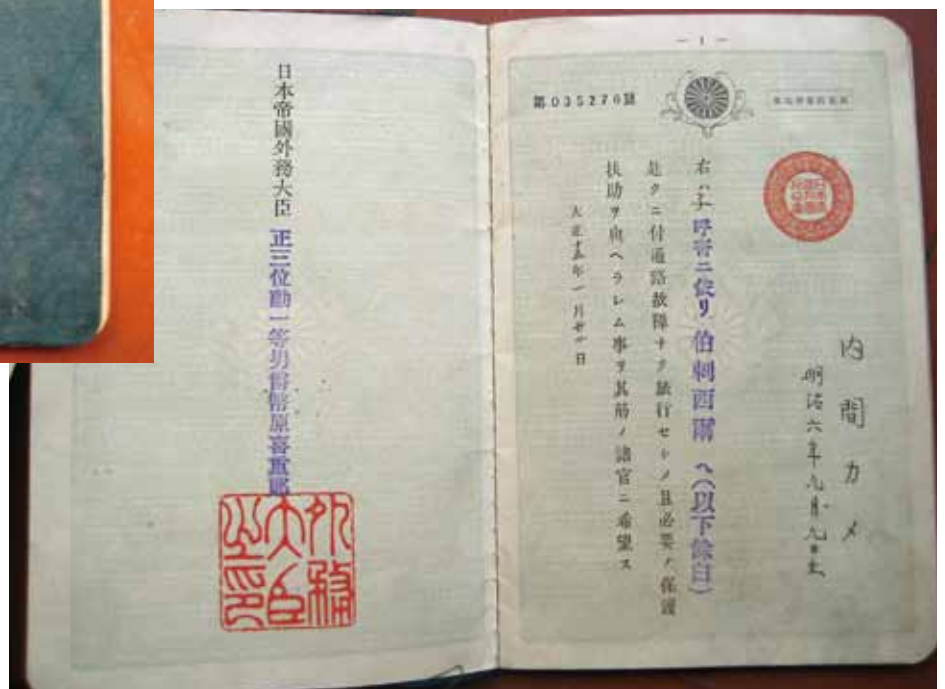




◀ 1919年にブラジルへ移民した内間安林さんの旅券
(島袋伸三撮影、2009年)



▲ 1926年に息子安林さんの呼び寄せで移民した内間カメさんの旅券
(前津政廣撮影、2009年)





▲1919年にペルーへ移民した善平朝正さんの旅券。
戦後浦添へ引き揚げた後にボリビアへ移民した。
(浦添市立図書館所蔵)



▲戦後ブラジルへ移民した喜屋武義雄さんの旅券
(前津政廣撮影、2008年)



▲ 1906 年にハワイへ移民した津波清太と親戚一家
(津波清撮影、2010 年)



▲ハワイ移民に先立ち、家族親戚で記念撮影。1925 年頃。
(浦添市立図書館所蔵)



▲ 1906 年にハワイへ移民した比嘉清貞さんの家族 (比嘉武宏提供)

◀戦前、ハワイ カウアイ島で生まれた比嘉カメ子さん姉妹
(比嘉カメ子提供)



▲ヨシコ・大城さんのカジマヤーを祝う浦添市人会の西原副会長と宮城会長。ハワイ宜野湾・浦添市人会創立 100 周年記念式典にて。
(ハワイ浦添市人会提供、2012 年)



▲名誉黄金勲章を受章したケネス・M・比嘉さんとタカモリ・宮城さん (ハワイ浦添市人会提供、2012 年)



▲ 1920 年にアメリカ合衆国へ移民した内間安珍・ハル夫妻とアメリカで生まれた安正・安松・桂
(津波清撮影、2010 年)



▲キャベツの種まき。内間安松・桂兄弟。(津波清撮影、2010 年)



▲内間安松さんの小学校時代の写真
(津波清撮影、2010 年)



▲内間兄弟（安正、安松、桂）が通った Old Senshin Gakuin (『Seinan Southwest Los Angeles』2010 年)



▲ 1960 年に開催された北米沖縄芸能保存会の演芸会 (津波清撮影、2010 年)



▲ 1918 年にブラジルへ移民した栗国カマドさんの家族写真
(浦添市立図書館所蔵)



▲ぶらじる丸の船上で
(米田正吉提供、1957 年)



▲移民青年隊の訓練所のようす (親富祖秀美提供)



▲1958 年に第 6 次移民青年隊でブラジルへ
移民した親富祖政吉さん (親富祖秀美提供)



▲ブラジル移民 100 周年記念パレード (浦添市秘書課撮影、2008 年)



▲ 1953 年の浦添村人会主催送別会
(在ペルー浦添同志会 宮城フアン提供)



▲新聞紙で浦添市の市章を作成
(在ペルー浦添同志会提供)



▲在ペルー浦添同志会のピクニック (在ペルー浦添同志会提供)



▲浦添市市制施行 30 周年記念式典に参加した
ペルーのミヤシロ夫妻
(エウヘニアさんとアントニオさん)
(浦添市国際交流課提供、2000 年)



1926 年にペルーへ移民した与座仁明さんの▶
表彰状 (浦添市立図書館所蔵)



▲浦添市市制施行 30 周年記念のお祝いにアルゼンチンからかけつけた佐久田朝政さんと又吉安次郎ロベルトさん
(浦添市国際交流課提供、2000 年)



▲アルゼンチン浦添市民会の集まり (アルゼンチン浦添市民会提供)



▲移民 100 周年記念パレードに参加したアルゼンチンのウラシーンチュ
(浦添市秘書課撮影、2008 年)



◀アルゼンチンに建立された移民100周年記念碑 (前津政廣撮影、2008 年)



▲第8次ボリビア移民（沖縄県公文書館所蔵、1959年）



▲ボリビアのコロニア沖縄第二移住地の中央小学校仮校舎で学ぶ子どもたち（沖縄県公文書館所蔵、1960年代）



▲コロニア沖縄農牧総合共同組合（CAICO）（石川友紀提供）



▲空から見た第一オキナワ移住地（石川友紀提供、1984年）

ボリビア國自営開拓移民募集

募集人員 五〇〇人
第一期募集 二〇〇人
第二期募集 一五〇人
第三期募集 一五〇人
募集期間 六〇年十一月十日
募集場所 六〇年十一月十日

募集要項

一、募集要項

二、募集要項

三、募集要項

四、募集要項

五、募集要項

六、募集要項

七、募集要項

八、募集要項

九、募集要項

十、募集要項

十一、募集要項

十二、募集要項

十三、募集要項

十四、募集要項

十五、募集要項

十六、募集要項

十七、募集要項

十八、募集要項

十九、募集要項

二十、募集要項

二十一、募集要項

二十二、募集要項

二十三、募集要項

二十四、募集要項

二十五、募集要項

二十六、募集要項

二十七、募集要項

二十八、募集要項

二十九、募集要項

三十、募集要項

三十一、募集要項

三十二、募集要項

三十三、募集要項

三十四、募集要項

三十五、募集要項

三十六、募集要項

三十七、募集要項

三十八、募集要項

三十九、募集要項

四十、募集要項

四十一、募集要項

四十二、募集要項

四十三、募集要項

四十四、募集要項

四十五、募集要項

四十六、募集要項

四十七、募集要項

四十八、募集要項

四十九、募集要項

五十、募集要項

五十一、募集要項

五十二、募集要項

五十三、募集要項

五十四、募集要項

五十五、募集要項

五十六、募集要項

五十七、募集要項

五十八、募集要項

五十九、募集要項

六十、募集要項

六十一、募集要項

六十二、募集要項

六十三、募集要項

六十四、募集要項

六十五、募集要項

六十六、募集要項

六十七、募集要項

六十八、募集要項

六十九、募集要項

七十、募集要項

七十一、募集要項

七十二、募集要項

七十三、募集要項

七十四、募集要項

七十五、募集要項

七十六、募集要項

七十七、募集要項

七十八、募集要項

七十九、募集要項

八十、募集要項

八十一、募集要項

八十二、募集要項

八十三、募集要項

八十四、募集要項

八十五、募集要項

八十六、募集要項

八十七、募集要項

八十八、募集要項

八十九、募集要項

九十、募集要項

九十一、募集要項

九十二、募集要項

九十三、募集要項

九十四、募集要項

九十五、募集要項

九十六、募集要項

九十七、募集要項

九十八、募集要項

九十九、募集要項

一百、募集要項

◀ボリビア移民募集記事『広報うらそえ』第20号（1960年10月）



▲第二移住地に住む山城さん夫妻。夫の興喜さんは第1次、妻の徳子さんは第4次チサダネ号でボリビアに渡った。（前津政廣撮影、2009年）



▲ 1945 年、サイパンの孤児院の前で（浦添市立図書館所蔵）



▲孤児院で学ぶ子どもたち
（浦添市立図書館所蔵）



▲支庁棧橋
（サイパン、石川朋子撮影、2012 年）



▲南洋興発工場事務所 糖度分析所跡
（テニアン、石川朋子撮影、2012 年）



▲テニアン国民学校跡（テニアン、石川朋子撮影、2012 年）



▲儀間商店の倉庫（テニアン、前津政廣撮影、2009 年）



▲旧南洋庁。現在はパラオ裁判所
(パラオ、仲地清撮影、2012 年)



▲遠方にジョーカージロック
(ポナペ、石川朋子撮影、2012 年)



▲カツオ節等を出荷した沖縄移民が使用していた倉庫
(パラオ、仲地清撮影、2012 年)



▲スペイン統治時代のカトリック教会（奥）と現在の教会（手前）
(ポナペ、石川朋子撮影、2012 年)



▲日本人の使用していた水タンク
(パラオ、仲地清撮影、2012 年)



コロニア小学校正門跡▶
(ポナペ、石川朋子撮影、2012 年)



▲青雲開拓団本部の前で（宮城高進提供、1940 年代）



▲開拓当時のままの土レンガづくりの家
（宮城高進提供、1998 年）



▲青雲開拓団が暮らしていた村
（宮城高進提供、1998 年）



▲台北市泉町にあった鉄道部。台湾の鉄道交通の全権を担う重要な役所だった。
（『臺灣紹介 最新寫真集』勝山吉作編、勝山寫真館、1931年）



▲台北駅前の三線道路
（『臺灣紹介 最新寫真集』勝山吉作編、勝山寫真館、1931 年）



▲基隆港の拡張整理とともにできたドック
（『臺灣紹介 最新寫真集』勝山吉作編、勝山寫真館、1931 年）



◀青雲開拓団が暮らした興隆堡の現在
(中国、又吉盛清撮影、2012年)

▼興隆堡に建つ記念碑
(中国、又吉盛清撮影、2012年)



▼開拓団が引き揚げ時に渡った第二松花江
(中国、又吉盛清撮影、2012年)

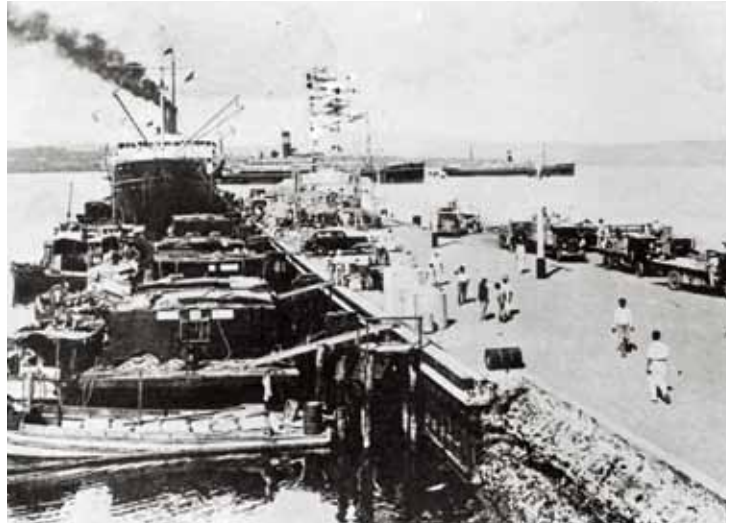


▶旧松花江駅
(中国、又吉盛清撮影、2012年)





▲ダバオ旧港の現在
(フィリピン、三木健撮影、2011 年)



▲昭和 10 年代のダバオ港の栈橋 (『ダバオ開拓 35 周年記念寫眞帖』
久志助親著、久志眞美館、1940 年)



▲ 1940 年に移民した比嘉榮久の家族 (『ダバオ開拓 35 周年記念寫眞帖』久志助親著、久志眞美館、1940 年)



▲アバカ工場跡に残されたままのハゴタンの車輪
(フィリピン、三木健撮影、2011 年)



◀バゴのアバカ工場跡
(フィリピン、三木健撮影、2011 年)



▲三陽染業工業（大阪府枚方市）の従業員仲間とともに。1936年頃。（浦添市立図書館所蔵）



▲日本本土へ向かう船の出航を見送る人々（親富祖永吉提供、1965年）



▲織布の検査。近藤紡績津島工場。（親富祖永吉提供、1964年）



▲久宇良開拓 10 周年を記念して建てられた揭示板と半鐘（佐久川志麻撮影、2013 年）



▲久宇良開拓記念碑。左が 40 周年、右が 10 周年。（佐久川志麻撮影、2013 年）



▲浦添市役所を訪問したウラシーンチュたち
(浦添市国際交流課提供、1990年)



▲第1回ウラシーンチュ歓迎会
(浦添市国際交流課提供、1990年)

▶第2回ウラシーンチュ歓迎会
(浦添市国際交流課提供、1995年)



▲みんなでカチャーシー。第3回ウラシーンチュ歓迎会。
(浦添市国際交流課提供、2001年)



▲市長を囲んで。第3回ウラシーンチュ歓迎会。
(浦添市国際交流課提供、2001年)



▲第4回ウラシーンチュ歓迎会
(浦添市国際交流課提供、2006年)



▲第5回ウラシーンチュ歓迎会に参加した人々。
前方は最高齢の比嘉カメ子さん。
(浦添市立図書館所蔵、2011年)

ごあいさつ



浦添市長 松本 哲治

この二〇一四年は、浦添から最初の移民が海を渡った一九〇四年（明治三十七年）からちょうど一一〇年を迎えるという節目にあたり、このたび、沖縄振興特別推進交付金を活用した浦添の歴史文化整備保存事業において多くの方々からの証言や記録資料（名簿等）を収録した『浦添市移民史 証言・資料編』を発刊するはこびとなりました。

ウラシーンチュは、近隣の八重山諸島や日本本土をはじめ、台湾、中国、フィリピン等のアジア地域、ハワイ、アメリカ合衆国本土、ペルー、ブラジル、アルゼンチン、ボリビア、メキシコなどの中南米各国、ニューカレドニア、ミクロネシアなどの太平洋の島々へ豊かな暮らしを求めて渡航し、生活拠点を築かれました。

文化も環境も異なる土地で、並々ならぬ努力を積み重ね、大きく羽ばたき活躍をされる方がいらした一方で、異郷で戦争を経験し敗戦によって帰郷を余儀なくされた方もいらっしゃいました。しかし、

過酷な経験を乗り越え引き揚げて来られた方々が目にした光景は、沖縄戦によって人口の約半分を失い、家屋や田畑を焼き尽くされた故郷の変わり果てた姿でした。

このような絶望的な状況の中で、戦火を逃れ先祖代々の地を守り抜いて来られた方々、戦後、仕事や住まいを求め移り住まれた方々、そして海外から帰郷して来られた方々が、培って来られた経験と知見を活かし、力をあわせ、現在の浦添市を築きました。私たちが平和を享受し、てだこのまち浦添が輝かしい発展と繁栄の道を歩んで行くことが出来るのも、こうした先人の筆舌に尽くしがたいご尽力の賜物であり、先人の偉業に対し、深く敬意を表するものであります。

郷里の復興に向けて努力をして来られた方々の経験と歴史を記録にとどめ、市民共有の財産として後世に引き継ぎ、伝えていくことが、現代を生きる私たちの務めであります。

本誌が、市民及び浦添出身の皆様方にとりまして、愛する我が郷土浦添と、この浦添を形作ったウラシーンチュの軌跡を知り、未来を創造する力となる一冊となりますことを心から期待申し上げます。

結びに、本誌を発刊するにあたり、貴重な体験の証言をしてくださった方々や調査へのご協力・資料のご提供をくださった多くの方々深く感謝を申し上げ、発刊のごあいさつといたします。

Congratulations on the Publication

Tetsuji Matsumoto

Mayor of Urasoe City

The year 2014 is a milestone year that falls on the 110th anniversary of the first voyage made by immigrants from Urasoe in 1904. In commemoration of this occasion, we plan to publish a book entitled “The History of Immigrants from Urasoe, Testimonial Accounts and Reference Material” that contains testimonial accounts and name lists of immigrants from Urasoe as part of a history and culture preservation project of Urasoe sponsored by a grant from the special Okinawa grant bond.

The Urashinchu (Citizens of Urasoe) made a series of voyages in search of a new homeland and better living conditions in neighboring areas on the Yaeyama Islands and Japan's Mainland, countries such as Taiwan, China, the Philippines, the Hawaiian Islands and the continental United States, and Central and South American countries such as Peru, Brazil, Argentina, Bolivia and Mexico, and the islands of the central and western Pacific such as New Caledonia and Micronesia.

Some immigrants thrived in their new homeland in spite of cultural and language differences while others were thrown into the chaos of war and despair and forced to return to their birthplace after the Pacific War. However, people who overcame harsh challenges and returned to Japan saw the lifeless form of their homeland where about half of the population was lost for the Battle of Okinawa and homes and land were almost completely destroyed.

Under such desperate circumstances, some people who escaped from the war and protected their ancestral lands, and who migrated to Urasoe after the war in search of work as well as to make a home, and those who returned home from overseas worked together to build up the present day Urasoe City. Because of great efforts of our forefathers, we have inherited peaceful city of Urasoe.

The obligation of our generation who live in the present day is to record the experiences and history of people who persevered and handed down such experiences and history to posterity as the common property of citizens.

I hope from my heart that this book will be cherished and prove important to the citizens of Urasoe and the people who were raised in Urasoe to know about their precious homeland Urasoe as well as the path of the Urashinchu who built up this homeland and create the future.

Lastly, on the occasion of publication of this book, I would like to express my deep appreciation to all the people who left or shared their testimonial accounts of their precious experiences, people who cooperated with us in collecting materials, and many other people who were engaged in this project.

発刊にあたって



浦添市移民史編集委員会委員長

石川 友紀

戦前・戦後をとおして海外・県外へ移民・移住者の多かった地域として知られる浦添市において、二〇一三（平成二五）年度、浦添の歴史文化整備保存事業により、『浦添市移民史証言・資料編』を編集し、刊行するに至りました。

本冊は、大きく二部構成になっています。

前半を占める証言からは一人ひとりの移民・移住者をとおして、戦前の浦添村のようすや、生活・暮らしぶりや、渡航時の状況、渡航先国や地域における異文化との接触の実態などを読み取ってほしいと思います。現地住民との交流などをとおして、平和な生活を送っていた事実も語られています。しかし、アジア太平洋戦争の勃発により、現地に定住していた海外の浦添出身者の多くもその犠牲となりました。証言者の戦争体験からはその悲惨さが伝わります。

後半は、移民研究の基礎資料ともいえるべき戦前海外移民名簿、引

揚者名簿、戦後海外移民名簿を収録しました。これらの名簿をもとに、世界中に広がった浦添出身者や、戦後浦添に戻ってきた人々・移り住んだ人々の実態をつかむことができるでしょう。ほかにも、多くの資料を収集しましたので、浦添市立図書館でご覧ください。

本冊は、浦添市移民史編集委員会のもと、専門部会・作業部会で検討し、構成いたしました。限られたページ数のなかで、現地調査の成果などを活かせるよう努めました。

従来は、郷里から外へ出ていった方々だけを対象としてきましたが、本事業では、戦後浦添に入ってきた方々も含め、大きく「人の動き」ととらえることにしました。戦後、外地あるいは沖縄県内外から浦添に移り住んだ方々の証言や名簿も収録しています。

仕事や土地を求めて国内外に移民した方々も、沖縄県内外から浦添へ移動してきた方々も、いまの浦添を築く力となった「ウラシンチュ」です。ウラシンチュのすがたを知る資料として、本『浦添市移民史証言・資料編』が広く活用されますよう期待します。

Greetings on the Publication

Tomonori Ishikawa

Chairman of the Editorial Committee of Immigration History in Urasoe

In Urasoe City which is known as a district from where many immigrants migrated overseas and other prefectures of Japan before and after the war, a book entitled “The History of Immigrants in Urasoe, Testimonial Accounts and Reference Material” has been compiled and published as part of the history and culture preservation project of Urasoe.

This book is comprised of two parts.

First of all, from the testimonial accounts of each immigrant that comprise the first half of this book, I hope you will find the prewar atmosphere of Urasoe village and the way of life, circumstances at the time of crossing the ocean, and actual conditions of contact with other cultures in their journeys and settlement. Descriptions are given of their exchanges with local residents and the peaceful lives they led. However, as a result of the outbreak of the Pacific War, many people from Urasoe who settled overseas also became victims of the war. Witnesses' actual experiences of war convey the miseries of war.

The second half of the book contains the name lists of immigrants, which serves as basic reference material for research on immigrants. Based on these lists, you can comprehend the actual conditions of those who migrated all over the world from Urasoe as well as those who returned or migrated to Urasoe after the Pacific War.

With this project, the “movement of people” was captured on a large scale, including people who migrated to Urasoe after the war. The testimonial accounts and name lists of people who migrated to Urasoe from other parts of Okinawa, other prefectures and regions under the control of Japan after the war are also covered.

Both people who migrated to other prefectures and overseas in search of work and land and people who migrated to Urasoe from other areas of Okinawa and other prefectures are all “Urashinchu” who became a force to build up present day Urasoe. I hope that this book “The History of Immigrants in Urasoe, Testimonial Accounts and Reference Material” will be used widely to appreciate about the integrated characters of the Urashinchu.

Felicitaciones por la Publicación

Tetsuji Matsumoto

Alcalde de la Ciudad de Urasoe

El año 2014 es un año histórico que cae en el 110º aniversario del primer viaje realizado por los inmigrantes de Urasoe en 1904. Conmemorando esta feliz ocasión, tenemos hemos decidido publicar un libro titulado “La Historia de los Inmigrantes de Urasoe, Volumen de Relatos Testimoniales y Datos de Referencia” que contiene los relatos testimoniales y la nómina de inmigrantes de Urasoe como parte del proyecto de preservación de la historia y cultura de Urasoe, haciendo uso del subsidio especial para la promoción de Okinawa.

Los Urashinchu (Ciudadanos de Urasoe) hicieron una serie de viajes en busca de una nueva tierra y mejores condiciones de vida en las regiones vecinas como las Islas de Yaeyama y el territorio principal de Japón, así como en los países extranjeros como Taiwán, China, Filipinas, las Islas de Hawái y los Estados Unidos continentales, los países de Centro y Sudamérica como Perú, Brasil, Argentina, Bolivia y México, y las Islas del Pacífico Central y Occidental, como Nueva Caledonia y Micronesia.

Algunos inmigrantes tuvieron éxito y prosperidad en su nueva tierra, mientras que otros fueron arrojados al caos de la guerra y a la desesperación e incluso obligados a regresar a su tierra natal después de la Guerra del Pacífico. Las personas que experimentaron esos crueles momentos de la guerra y regresaron a Japón, vieron su tierra natal sin vida y en la ruina, donde se perdió cerca de la mitad de los habitantes durante la Batalla de Okinawa y las viviendas y otras infraestructuras estaban devoradas por el fuego y destruidas casi en forma total.

Bajo tales circunstancias críticas, personas que sobrevivieron de batalla de Okinawa, otras que emigraron a Urasoe después de la guerra en busca de trabajo y residencia, y aquellas que regresaron del extranjero a su tierra natal trabajaron juntos, uniendo sus fuerzas, para edificar y crear la presente ciudad de Urasoe. Gracias a los grandes esfuerzos y voluntad de nuestros antepasados, hemos podido heredar la pacífica, próspera y promisoría ciudad de Urasoe.

Por lo tanto, creemos que es la misión de nuestra generación dejar registradas las experiencias y la historia de nuestros antepasados y transmitirlos a la posteridad como una propiedad común de los ciudadanos de hoy y del futuro.

Espero de todo corazón que este libro sea apreciado y muestre su importancia a los ciudadanos de Urasoe y a las personas que se criaron en Urasoe, dando a conocer la historia de su querida tierra Urasoe, así como la trayectoria de los Urashinchu, que construyeron y crearon la ciudad de hoy y del futuro.

Por último, con motivo de la publicación de este libro, deseo expresar mi más profundo agradecimiento a todas las personas que dejaron o compartieron sus relatos testimoniales de sus valiosas experiencias, a las personas que cooperaron con nosotros en la colección de materiales, y muchas otras que participaron en este proyecto.

Saludos con Ocasión de la Publicación

Tomonori Ishikawa

Presidente del Comité Editorial de la Historia de Inmigración de Urasoe

En la ciudad de Urasoe, conocida como un distrito de donde muchos inmigrantes emigraron al extranjero y otras regiones antes y después de la guerra, se ha compilado y editado un libro titulado “La Historia de los Inmigrantes de Urasoe, Volumen de Relatos Testimoniales y Datos de Referencia” como parte del proyecto de preservación de la historia y cultura de Urasoe.

La primera parte de este libro contiene los relatos testimoniales de cada inmigrante. Espero que el lector pueda tener un conocimiento general del entorno y de la vida del pueblo de Urasoe antes de la guerra, la situación del pueblo antes de emigrar y las condiciones cuando realmente tuvieron contacto con distintas culturas en el país de destino, así como los detalles de intercambios con los residentes locales y la vida pacífica que ellos llevaban. Sin embargo, cuando estalló la Guerra del Pacífico, muchas personas de Urasoe que se habían establecido en el extranjero se convirtieron también en víctimas de la de guerra. Testigos reales revelan su experiencia de guerra para transmitir la desgracia de la guerra.

La segunda mitad del libro contiene listas de nombres de los inmigrantes, las que sirven como un material básico de referencia para la investigación sobre los inmigrantes. En base a estas listas, se puede conocer las situaciones actuales de aquellas personas que emigraron a diversos países del mundo desde Urasoe así como de las personas que regresaron o emigraron a Urasoe después de la Guerra del Pacífico.

A través de este proyecto, se pudo captar el “movimiento de la gente” en gran escala, incluyendo las personas que emigraron a Urasoe después de la guerra. Esta parte cubre también los relatos testimoniales y las listas de nombres de quienes emigraron a Urasoe de otras partes de Okinawa y de otras regiones bajo el control de Japón después de la guerra.

Personas que emigraron a otras prefecturas y al extranjero en busca de trabajo y tierra y personas que emigraron a Urasoe de otras zonas de Okinawa y de otras prefecturas son todas “Urashinchu” que se convirtieron en una fuerza para construir el Urasoe del presente. Deseo que este libro titulado “La Historia de los Inmigrantes de Urasoe, Volumen de Relatos Testimoniales y Datos de Referencia” sea ampliamente usado para conocer la imagen y el entorno de los Urashinchu.

「浦添市移民史 証言・資料編」 目次

南米

ペルー

口絵

ごあいさつ

発刊のことば

浦添市長 松本哲治
浦添市移民史編集委員会委員長 石川友紀

I 証 言

ハワイ・北米

ハワイ

比嘉カメ子……………3

津波清範……………6

栗国亀子……………9

花子・レイチエル・城間……………10

オトメ・宮平・サイキ……………12

西平宗光……………13

トーマス・ホマレ・仲西……………15

ノワキ・比嘉ジュンコ……………17

宮城盛吉……………20

ジェイムス・シンスケ・宮城……………21

ジョージ・コーゼン・宮城……………24

ローレンス・春雄・西原……………25

大城政英……………27

アメリカ合衆国本土

内間安松……………31

トーマス・弘・玉那覇……………32

金城義男……………34

キリアン・好子・山城……………37

ブラジル

栗国重信……………51

内間清三……………52
内間安一郎……………53

仲程通二……………54

宮城茂行・神山明子……………55

新垣トミ……………57

米田正吉……………58
知念千代子……………59

當山全勝……………60

又吉清栄……………62
又吉正雄……………63

親富祖政吉……………64

宮城清徳……………65
比嘉 清……………67

仲西盛幸……………69

内間ツル子……………71
伊智春子……………73

比嘉千代子……………74

宮城信吉……………75
比嘉茂子……………78

又吉盛喜……………80

松田 優……………81
銘荏成二……………83

喜屋武義雄……………84

又吉正二……………85
比嘉志世子……………87

アルゼンチン

伊舎良初子……………91

石川春枝……………93

ボリビア

比嘉秀充……
又吉正行……
102 97

比嘉健男……
山城徳子……
103 100

比嘉光子……
善平千代……
105 101

アジア太平洋

フィリピン

宮平忠一……
知念和子……
109 113

知念英太郎……
比嘉 護……
111 115

又吉英仁……
112

南洋群島

内間安光……
棚原武雄……
平敷寿恵子……
儀間光男……
銘苅光子……
119 129 140 153 162

比嘉幸正……
上間芳子……
久田友明……
松原勝吉……
翁長盛夫……
123 133 147 157 163

桑江秀子……
池宮繁子……
新城智子……
仲栄真八重……
宮城福正……
126 137 150 159 165

台湾

松下義丸……
喜屋武マサ……
173 185

比嘉好子……
稲福房子……
178 188

金城 隆……
下地健造……
180 192

満州

宮里静江……
嘉数キク子……
197 207

喜舎場宗景……
201

宮城高進……
202

国内

日本本土

又吉藤子……
當間幸吉……
213 222

西原文子……
宮里かつ子……
216 224

又吉百合子……
220

八重山

宮城良善……
229

Ⅱ 名簿・資料

戦前海外移民名簿

解説 石川友紀	235
海外旅券下付表名簿	237
ブラジル移民名簿	306
フィリピン・ダバオ在住浦添出身者名簿	314

引揚者名簿

解説 宮内久光	321
復員名簿	327
引揚者給付金請求書処理表名簿	476
青雲開拓団名簿	513
南洋群島引揚者名簿（終戦前）	520
南洋群島海没者名簿	522
南洋群島引揚船遭難救助者名簿	522
南洋群島引揚者名簿（戦後）	522

戦後海外移民名簿

解説 石川友紀	525
戦後ブラジル移民名簿	526
戦後ポリビア移民名簿	540

資料

収集資料一覧

調査協力者

収集資料一覧	545
調査協力者	548



アメリカ合衆国

ペ
ル
ー

ブラジル

ボリビア

アル
ゼ
ン
チ
ン



満州

浦添

台湾

フィリピン

南洋群島

・ハワイ

I

証
言

凡例（証言）

◆収録証言について

一 収録証言は、左記の聴取調査時の収録テープをもとに編集した。

①海外調査 平成二〇年度 ブラジル・アルゼンチン調査

平成二二年度 ペルー・ボリビア・ブラジル調査

平成二三年度 ハワイ・アメリカ合衆国本土調査

平成三三年度 ハワイ調査

②県外調査 平成二二年度 関東・東海・関西地方調査

平成三三年度 九州地方調査

③市内調査 平成二二年度～平成二五年度調査

二 聴取調査は、個人調査と座談会調査を実施。ページの制約上、個人調査の一部および座談会調査は収録していない。

三 収録証言は、国・地域ごとに大きく「ハワイ・北米」「南米」「アジア太平洋」

「国内」に分けた。掲載順については、原則左記の通りとなっている。

①「ハワイ・北米」は、ハワイ、アメリカ合衆国本土の順に配列。最初に戦前移民、戦後移民の順とし、それぞれ一世、二世、三世の順に収録。一世は渡航順、二世、三世はそれぞれ生年の順に収録。戦後アメリカ合衆国本土に渡航した米兵花嫁は、アメリカ合衆国本土の最後に収録した。

②「南米」は、ペルー、ブラジル、アルゼンチン、ボリビアの順に配列。各国ごとに、最初に戦前移民、戦後移民の順とし、それぞれ一世、二世、三世の順に収録。一世は渡航順、二世、三世はそれぞれ生年の順に、戦後ボリビアからブラジルへの転住者はブラジルの最後に、転住順に

収録した。

③「アジア太平洋」は、フィリピン、南洋群島、台湾、満州の順に配列し、各地域とも生年の順に収録した。

④「国内」は、日本本土、八重山の順に配列し、各地域とも生年の順に収録した。

四 「ハワイ・北米」「南米」は、顔写真の下に、氏名、世代、出生地、生年月日を示し、最後に調査年月日、調査者、調査地を記した。屋号については可能な限り示した。

五 「アジア太平洋」「国内」は、氏名、出生地、生年月日を示し、最後に調査年月日、調査者、調査地を記した。ただし、収録者によって一部掲載していないこともある。

◆表記について

一 年代は、収録者が日常的に用いる言葉を採用した。年の表記は、「ハワイ・北米」「南米」では西暦、「アジア太平洋」「国内」では和暦を用いた。

二 出生地については、浦添市内の場合は字名、市外の場合は州名または市町村名を示した。

三 差別的と思われる言葉は、特に社会的背景を表すのに必要な場合を除き改めた。

四 難読な地名や名字等にはふりがなを付した。地名は収録者の発音のままに記したが、明らかな誤りは特に断りなく訂正した。

五 必要に応じ、ページ中に注記（※）を設けた。

I 証言の解説

石川 友紀

I 証言では浦添出身者・浦添在住者について、移民・移住を大きく「人の動き」とみなし、海外への移民先国として1 ハワイ・北米、2 南米、3 アジア太平洋の3 地域と、4 国内と併せて四分類した。つぎに、同上地域を移民先国（地域）や移住地別に下位の分類とした。以下、その内容を記す。

1 ハワイ・北米では、ハワイとアメリカ合衆国本土を取り上げた。カナダは戦前浦添から四人の移民がみられたが、証言の事例がとれなかった。

2 南米は戦前・戦後とも浦添から移民が多出している地域なので、渡航年の早い順にペルー・ブラジル・アルゼンチン・ボリビアの四か国を取り上げた。戦前、南米のチリや、中米のメキシコ・キューバなどへも沖縄県移民の送り出しはあったが、浦添出身者の証言が得られなかったので、本項から除いた。

3 アジア太平洋は戦前沖縄県からの移民・植民が多かった地域である。戦前日本の植民地であった台湾・満州や、日本の委任統治領であった南洋群島への移民・移住は旅券を必要とせず、距離的に近く旅費も安かったので、出稼ぎ目的の多数の移民や移住者が送り出された。しかし、戦後は敗戦により日本人移民はすべて引揚げを余

儀なくされた。旅券を必要としたフィリピンも、アジア地域に属することから、本項で取り上げた。同国以外に沖縄県からはシンガポールやインドネシアなど東南アジアへの移民もあった。浦添出身者も若干いたようだが、実態は不明である。

4 国内は、日本本土への出稼ぎと、八重山諸島への移住を取り上げた。

ここでは、国内外で実施した聴取調査のなから、九四件の証言を収録した。